

令和5年6月12日

スマート農業推進シンポジウム・現地検討会（公開）
「果樹のスマート生産技術体系の構築と普及を考える」開催要領

東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会長 岩波 宏
(果樹茶業研究部門 果樹生産研究領域長補佐)

1. 趣 旨

我が国における果樹農業従事者人口の減少に伴う労働力不足への対応は喫緊の課題となっており、果樹農業の安定的かつ持続的発展には省力化や生産性の向上に向けた技術革新が必須です。そこで、令和元年から実施されてきたスマート農業実証プロジェクトの成果を紹介し、果樹のスマート農業技術への理解を深めて社会実装を加速化させることを目的として、シンポジウムを開催します。

2. 開催日時 令和5年9月15日（金） 9:00～17:00

3. 場 所

(1) 現地検討会（8:50～12:30）

①せんだい農業園芸センター、②JR フルーツパーク仙台あらはま
「企業による直売型観光果樹園経営における省力樹形園」

③宮城県農業・園芸総合研究所

「リンゴジョイントV字樹形の省力栽培技術 等」

集合場所・時間：現地検討より参加の方は、仙台市営地下鉄東西線 荒井駅に8時50分に集合ください。（貸し切りバスで移動します。）

(2) シンポジウム（13:30～16:30、内容は、別紙1のとおり）

宮城県農業・園芸総合研究所 6階講堂

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1（代表）TEL：022-383-8118 FAX：022-383-9907

シンポジウムのみ参加の方は、JR 東北本線名取駅より乗り合いバス「なとりん号 高館線 11:30 発または13:00 発」、バス停『農業園芸研究所』をご利用ください。

4. 主催・協力

主催：農研機構果樹茶業研究部門（スマート農業実証事業果樹・茶体系）
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会

協力：東北農業のイノベーション技術創造研究開発プラットフォーム
果樹生産システム研究開発プラットフォーム

5. 参集範囲

普及関係者（行政、JA等）、民間事業者、果樹生産者、研究機関等

6. 定員 50名（定員を超えた場合は、普及関係者を優先させていただきます。）

7. 参加申し込み・問い合わせ先

申し込み締め切り：令和5年8月14日（月）

（別紙2により各機関で取りまとめて電子メールで送付ください。）

申し込みあて先：東北果樹研究会事務局

果樹茶業研究部門果樹生産研究領域果樹スマート生産グループ 花田 俊男

電子メール：ringo-fruit@naro.affrc.go.jp 電 話：019-645-6155

問い合わせ先：スマート農業実証事業果樹・茶体系事務局

農研機構果樹茶業研究部門研究推進部（盛岡研究拠点）

柳沼 勝彦

電子メール：smart-nifts@naro.affrc.go.jp

電 話：019-645-6151

【別紙1】

スマート農業推進シンポジウム

「果樹のスマート生産技術体系の構築と普及を考える」

司 会 農研機構果樹茶業研究部門 柳沼勝彦

あいさつ

農研機構果樹茶業研究部門所長（スマート農業実証事業 果樹・茶体系責任者） 井原史雄

1. 講 演（13:30～15:30）

①企業による直売型観光果樹園経営におけるスマート農業生産体系

仙台ターミナルビル株式会社 菊地秀喜

宮城県の企業による直売型観光果樹園経営において、ナシ園、リンゴ園、ブドウ園において①経営・栽培管理システム、②生育予測、③スマート樹形（省力樹形）、④スマート農機（ラジコン式草刈り機、農作業支援ロボット台車、アシストスーツ）、⑤非破壊選果機について導入実証を行った。その実証結果と現在の取り組みについて紹介する。

②持続可能な都市農業を実現するための農作業支援ロボットによるスマート農業一貫体系

神奈川県農業技術センター生産技術果樹花き研究課 柴田健一郎

神奈川県のナシ園において①小型ロボットによるナシの運搬支援、②草刈りロボットによる果樹園下草管理について導入実証を行った。それらの成果と合わせて、持続可能な都市農業を実現するための農作業支援ロボットによるスマート農業一貫体系構築の取り組みを紹介する。

③大規模生産法人による収穫作業自動化によるスマート農業生産体系

農研機構本部企画戦略本部 喜多正幸

広島県のナシ園において①自動収穫ロボット+果実収納システム、②リモコン式草刈機、③営農管理システム、④気象環境測定装置について導入実証を行った。特に、自動収穫ロボット、果実収納システムの開発状況やその新技術の導入による大規模生産法人によるスマート農業生産体系構築の可能性を紹介する。

④千葉県ナシ栽培におけるスマート農業技術の体系化

千葉県農林総合研究センター最重点プロジェクト研究室 桑田主税

千葉県のナシ園において①防除支援システム、②微気象観測装置、③生育期の画像解析システム、④ロボット作業車（自動追尾）+収穫+除草剤散布+せん定枝回収、⑤軽労化評価について導入実証を行った。それらの成果を基に、防除の効率化や作業の省力化を推進するためのスマート農業技術の体系化について紹介する。

2. パネルディスカッション（15:40～16:30）

テーマ：「果樹のスマート生産技術体系の構築と普及を考える」

座長 岩波 宏